

## 2.6 空港臨海部の目指すべき方向性

空港臨海部の強みと 2040 年の将来動向に加え、新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、空港臨海部の目指すべき方向性を以下のとおり整理しました。

### 産業特性

- **オンリーワンのものづくり：**  
製造が難しい製品も作業工程と工具を独自に考え、対応できる技術力・ノウハウを持つ企業が集積
- **都心付近にある工業専用地域という希少性：**  
住宅地などでは制限される産業活動（24 時間稼働、危険物取扱など）や実証実験などが可能
- **新たな開発可能性のある土地の存在**（中央防波堤埋立地：令和島周辺）

### 立地特性

- **顧客との近接：**  
都心及び関東一円に近く、様々な交通手段を活かした人の交流や物流の適地
- **世界との近接：**  
羽田空港及び東京港を窓口とする世界との近接性

### 都市資源

- **希少な自然・観光資源の存在：**  
23 区内（都心付近）では希少な公園・緑地・水辺・河川、大田市場などの存在
- **多重の交通手段の存在：**  
交通手段の多重性（中央環状線や湾岸線、首都高速道路、空港、リニア中央新幹線〔品川駅に近接〕、港湾の存在）
- **物流、防災拠点機能の存在：**  
京浜トラックターミナル、東京流通センター、東京団地冷蔵など、多数の倉庫の存在

## ▼ 2040 年の将来動向 × 空港臨海部の強み

### 将来動向×産業特性に基づく方向性

- 既存の技術・ノウハウを生かしながら、次世代の高付加価値産業（製造装置・産業機械、医療・介護、環境・エネルギー・循環、自動車など）への参入が進み、災害時や感染症発生時にも継続性の高い産業が拡大している。
- 研究開発、試作製造、実証実験などを展開し、新技術の社会実装に挑戦できる場となっている。

### 将来動向×立地特性に基づく方向性

- 多様な交通ネットワークが更に拡充され、物流適地としての価値が高まり、災害時や感染症発生時にも都心における高度物流網の一翼を担っている。
- 人材、技術交流（技能研修、業務連携など）や、世界の製品開発・試作現場となっている。

### 将来動向×都市資源に基づく方向性

- 空港臨海部で働く人や訪れる人（区民・都民、羽田空港利用者など）にとって、アクセスしやすく、自然・観光資源を活かした魅力的な就業環境や観光拠点が形成されている。
- 大規模災害時の水・食料・エネルギーの備蓄・生産基地、復旧・復興の拠点となっている。
- 区民にとって、余暇の充実や健康維持に役立つ憩いの空間となっている。

図 2-48 空港臨海部の強みと目指すべき方向性